

りとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2020年5月

新年度がスタートして、早くも1か月が経ちました。今年度は新型コロナウイルスの影響で例年とは異なる動きが多くありますが、体調管理と予防をしっかりと、みなさんでのりきっていきましょう!! コロナ対策にぴったりの、手作りマスクについてもご紹介します☆ それでは、読みごたえたっぷりの5月号をお届けします!



4月より入職致しました、山口陽菜です。上越生まれ上越育ちで、上越が大好きです。毎日笑顔を絶やさず、私にできることを一生懸命頑張っていきたいと思っております。まだまだ未熟な私ですが、よろしくお願いします。



4月から入職しましたらんの坪井美鈴です。たくさんお世話になってきた上越へ何か恩返しができるかと思っています。自分に出来ることから少しずつ頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

とも



にこ

4月1日に入職しました、丸山智美です。利用者の方々に分かりやすく丁寧な支援を目指していきたいです。「にこ」の皆さんの笑顔をたくさん見られるように過ごしていけたらと思います。



ららん

4月より「とも」で働かせていただいています。横尾美紀と申します。皆様の気持ちに寄り添い、皆様が楽しい時間を過ごせるように頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

新しくもーとに入りました武藤美咲です。上田女子短期大学で保育を学び地元である上越に帰ってきました。コミュニケーションを通して、その人の事を多く知れるよう声を出していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

新任職員紹介

~よろしくお願いいたします!~



きら



ふぁみりあ

この度、ご縁を頂き「りとるらいふ」で働くことになりました片田と申します。私は他法人にて20年以上、主に入所施設やグループホームで仕事をしてきました。今までの経験を活かして仕事に励みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もーと



4月から入職致しました、岩片です。以前は高齢福祉の現場で働いていました。日々の支援を通して、皆さんに顔と名前を覚えていただきたいです。至らない点多々ありますが、ご指導いただきながら精一杯頑張ります。



11月エッセイ

昨年同様、今年度も続けてまいります♪ エッセイを伝えた職員が次回のエッセイのテーマを決めて、次の職員へつないでいきます・・・♡ 職員のみなさんは原稿作成のご協力をお願いいたします◎



「今はまっているスポーツは？」

(もーと 井上職員からのテーマ)

はまっているスポーツは…夜散歩と寺ヨガです。スポーツと言えるのか、分りませんが(笑) 残念ながら今はコロナの影響で出来ていません。なので「はまっていたスポーツは」と答える方が良いでしょう(笑)新潟に住んでいた頃は、万代を散歩し、ちょっと居酒屋に寄って帰るという事を楽しんでいました。寺ヨガはその名前の通り、寺でヨガをしていました。ふふ、思い出すとにやけてしまう程、色々な事がよみがえりますね。この時期だからこそその関わりや繋がりも大切にして上越でも素敵な思い出が出来るようにしたいです。



もーと 中司和

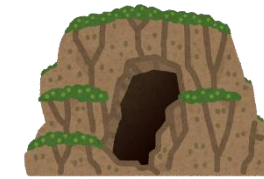


次回のテーマ「おすすめの漫画やDVDは？」

「行ってみてよかったところ」

(にこ 斎藤職員からのテーマ)

暖かな日差しが気持ち良くお出かけに最適な季節ですが、新型コロナウイルスの感染防止で外出自粛が続いていますね(>_<) (私は出無精なのでそれほど困っていないのですが(笑)...) このテーマをもらった時に少し困りましたが…ふと出てきたのが、私が生まれ育った佐渡にある「竜王洞」です! 海底溶岩の浸食によって出来た洞窟で、天候や日照、波などの条件が良ければ、きれいに青く光り、佐渡版「青の洞窟」とも呼ばれています。竜王洞は歩いて中まで入ることが出来て、洞窟ならではのひんやりとした空気を感じられ、とても幻想的な風景を楽しむことが出来ます(∇∇) 新型コロナウイルスが収束し、佐渡にお出かけの際にはぜひ行ってみてください!!



とも 出崎美貴



次回のテーマ「おうち時間の楽しみ方」

内部研修について

りとるらいふでは、職員が新たに入職してきた際、または法人内の他事業部(高齢部や児童部)から職員が異動してきた際に、必ず内部研修を実施しています。基本を知ることと目的としていますので、内容としては「介護基礎研修」で車いす介助のポイントを学んだり、「障害理解基礎研修」で自閉症スペクトラムの特徴等を学んだり、「医療基礎研修」でてんかんについて学んだりします。もちろん、内部研修なので、講師は障害部内のサービス管理責任者や看護師たち。研修の場では、学ぶ側も、教える側も、とても真剣です。毎日の支援は、「学びと実践がセット」とりどるは考えています。だからこそ、こうした時間を大切にしています。こんな研修講師いるわよ～なんて人、もしいたらぜひお声かけくださいね。



少しずつ暖かくなり、さらには窓拭きや畑作業、洗車などの屋外での活動が大活躍中★今月号では、窓拭きをしているところをパシャリ📷窓に泡をかけ、長〜いブラシで汚れを落とし、ホースを使ってダイナミックに水をかけて流していきます🌟室内からピカピカになった窓を見て、びっくりされる利用者さんも・・・😊！！
敷地内にある畑には、今年度新たな野菜も植えたのでこれからが楽しみです🌱



きら

とも

新型コロナウイルスの影響で今まで通りに外出することが難しい中、「おうちかん」ではなく「とも（室内）時間」をご利用様により豊かに過ごして頂けるよう、ともでは輪投げ大会や生け花🌸、白玉だんご🍡づくりなどを行いました★活動に参加されるご利用様の笑顔と外出自粛期間を乗り越えていけたら…と思っています🐱



「日本に暮らして考えること～当たり前の違いから～」

日中生活支援課 課長 久保久美子

これまでのコラムでも、何度となく私がタイで過ごしたことを書いたことがありますが、今回はタイで私が見てきた様子を特別編として記載することにしました。
私がタイに滞在していたのは、大学卒業後のこと。タイのバンコクから少し離れた町にタイ政府の国立障害児者施設エリアがあり、その敷地内の一角でケアを実施していたタイの現地 NGO 団体に数年ボランティアとしてお世話になりました。その国立施設には、タイ全土からの身寄りのない障害児者が数千人住んでおり、私の言葉で言わせると「保護施設」であり「収容施設」のような場所で、最初にそのエリア内を案内された時の衝撃は今でも覚えています。その大きな敷地内には、幼児、児童、成人女性、成人男性のエリアがあり、それぞれのエリアにはいくつもの棟に様々な障害児者が分けられて住んでいました。その中でも、いまだに忘れられない棟が2つあります。
ひとつは、児童棟の中の1つです。タイは暑い国なので、室内フロアはタイルがメインなのですが、そのタイル張りの大きな部屋の左右に、日本ではもうあまり見ないほど大きな頭の水頭症の子供たちが何十人も床に横たわっている部屋でした。みんなあまりにも大きな頭なので、横向きに寝かせられており、自分たちでは寝返りできない状況。その異様に大きな頭にも驚きました。何より同じような子ども達が同じように床に並べられて、みんな私が立つ玄関側を向いてきれいな目でこちらを見ていたことに本当に衝撃を受けました。ちなみに、全員不要な衣類は着用していないので、布おむつを巻かれているのみでしたし、タイはまだ日本に比べ不衛生なためにアタマジラミもごく普通にいますので、その予防から男女問わず全員坊主頭でした。衝撃を受けたのは、その瞬間的な映像だけではなく、そこにある職員の関わりに対してもでした。食事は1日3回ありましたが、誰でも食べられるように何が入っているのかも分からないようなミキサー食のみでしたし、2人程度の職員でフロアの何十人の子供たちの世話をしなくては行けないので、食事の時間にはその子供たちの頭を職員の方に向けて5つ以上（それぞれの体を扇形になるように）並べ、上を向いて待っている子供たちの口の中にその食事を入れるという作業をしていました。自分には、最初その行為がどうしても対人仕事には見えず、まるで何かに餌をあげているように思えて仕方ありませんでした。それでも、1日その3食しか食べられないため、子供たちは口を大きくあぐりと開けて待っているのが現実でした。また、その棟は身体介助が必要な障害児が集められており、他のフロアには脳性麻痺であろう筋緊張の強い子どもたちが多くいたのですが、そこで衝撃を受けたのは、職員が子どもを持つ方法でした。体の筋緊張が強いため、てこの原理を用いるかのように、膝と手をもってひょいと持つのです。抱き上げるとか、そういう表現ができ

る行動ではありません。子供たちはみな痩せていて一人で軽々持てる体重なため、本当に何か荷物を持つかのように手首と膝をもってぶらんぶらんと持って動くのです。ここではそれが当たり前の行動であり、何の違和感もなければ負い目もなく職員はそうにしていました。
もうひとつ忘れられない棟が、男性棟の中のある建物でした。そのフロアに行った途端、目に入ったのは入り口の柵にしがみついているこちらを見る傷だらけの男性でした。痩せて目が大きく見え、体も頭も傷だらけで、入り口の柵を揺らしていました。そして、その奥には同じような男性がたくさんいたのですが、そのうちの数名は、手首や足首をひもで結ばれて、その紐はベッドや窓柵にくくられていました。その他、目隠しされている人もいました。全員成人男性でしたが、体は細く、もちろん衣類はおむつのみ。多分多くの方が独語のように何かを叫んでいたのですが、タイ語の分からない私にはそれが奇声に聞こえ、また入り口にしがみついているこちらを見る目が何かを欲するように見え、頭での理解を超えて感情が動きとも怖く感じてしまいました。数か月して何度か行くようになってからは、そこにいる方たちは知的障害や自閉症の方々で何かしらの理由から自傷行為があることや外に出たいのだということや頭での理解できるようになり、私自身も怖さではなく、切なさややるせなさを感じるようになりました。そして同時に、人というのは置かれた環境でこうも違う有り様とならざるをえないのかということと、そしてその有り様が人に与える印象というのはなんと強烈で怖いものなのかと痛感するようになりました。

上記の2つの忘れられない棟以外にも様々な有り様を見ました。それが、日本と同じアジアの現実でした。もしその現実を皆さんが目の前にしたとき、一体何を考え、何をしようか。私は、いまだに思います。日本に生まれ、教育を受け、人が人として互いに認められる社会に生まれて良かったと。自分もタイに生まれていけば、あの環境が当然のことで、違和感なく同じように関わっていたのかも。まだまだいろいろ足りないと言われていた日本社会だけでも実はとてもたくさんの当たり前をもって、それは幸せなことなのではないのかなど。
更により良いものを求め、理想を持つことや比較することは大切なことだと思います。でも、その時に忘れたくないことは、今自分がもっている当たり前の幸せもきちんと感じるということだと思います。社会全体にたいしても、所属する組織に対しても、家族や友人に対しても、そして子供に対しても、自分に対しても。私はそうありたいと思っています。みなさんは、どうでしょうか。



先日ららは、室内でお花見を行いました。大きな桜の木はみんなで作った桜の花びらで満開に！レジャーシートの上で焼きそばや綿あめなど、屋台のご飯を味わいました。午後からは近所の公園に出掛け、本物の桜の木の下で記念撮影(^^♪ご利用者様と一緒に、お部屋の中でも「春」を感じることが出来ました。

ららん

4月はお花見の予定でしたが、感染症予防のため中止とさせて頂き、その代わりにちょっと特別なおやつとして皆でケーキを食べました。その他にも外出活動は出来なくても、工作でかわいいお部屋を作ったり、大好きなフィギュアを並べて動物園を作ったりと自分たちで考え、好きなことにとことん取り組んでいた皆さんでした。



にこ



もーと

新学期を迎えたもーとのお友達。新学期は2週間でまた休校になりましたが、その登校した2週間が進級を意識できた時となり、笑顔も増え大きくなったように感じられます。抱っこで目が合うと微笑んでくれたり、自らスタッフの手を握り、好きな玩具を取りに行ったり、積極的に活動を楽しんでいます。鯉のぼり作りやお菓子作りでは、沢山の笑顔が溢れていました。



季節の制作紹介

今月号はもーとの制作をご紹介します♪



みんなの似顔絵とオリジナル模様が鱗になった鯉のぼりを作りました。鯉のように元気に大きく成長するよう願いが込められています。



手作りマスク紹介

りとる職員の素敵な手作りマスクをご紹介します☆



ららん 坪井職員

キッチンペーパーを重ね合わせて蛇腹折りにして、両端を織り込むだけで簡単に作ることができます♪

とも 今井職員

素敵な手作りマスクで心も体も元気に感染症を乗り越えましょう！！

